
手紙

ゆうき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手紙

【Nコード】

N8602I

【作者名】

ゆうき

【あらすじ】

「遠距離恋愛」が主になっている。

登場人物「二宮鈴」と「山田亮太」との遠距離恋愛。

文通だけで話す切ない遠距離恋愛です。

鈴のお願い。

手紙・・・

あなたとは手紙でしか会えなかった。

寂しかったし泣く時もあった。

会いたかったでも会えない。

寂しい思いでいっぱいだった。

いつか大人になったらまた会えるあなたに。

私は二宮鈴。

彼氏は小学校の頃は学校が同じだったけど親の転勤で遠くに行ってしまった。

名前は山田亮太。

離れてからはずっと文通していた。

亮太からの手紙・・・

鈴へ

元気？俺はめっちゃ元気。

親の転勤で離れてごめん。鈴にめっちゃ会いたいのに会えないよ。

地図を見るとこんなに近くにあるように見えるのになんで俺達会えないんだろうな。

鈴も元気でいてくれたら嬉しいな。

鈴からの手紙・・・

亮太へ

私だって元気だよ！

なんで亮太があやまるの？だってしょうがないじゃん。

千葉行ってみたいな～！

一回家族旅行で行った事があるの！

一回亮太と二人で行ってみたいな！

こんな手紙を毎日毎日送っていた。
ある日こんな手紙が届いた。

鈴へ

俺好きな人ができたんだ・・・

やっぱり遠距離恋愛は辛いしどっち共そっちの学校で好きな人つくろ
うよ！

ごめんやけど俺はそうしたい。

鈴の事好きだよ！でも遠距離恋愛はどっち共辛い思いするだけだと思
う。

だから俺達別れよう。

亮太へ

何でそんな事言うの？

遠距離恋愛でもいいじゃん！

私は亮太の事が大好き！亮太以外の人を好きになれないよ！
絶対亮太とは別れないからね！

鈴はそれから手紙を書かなかった。

亮太も同じ。

亮太も手紙を書かなかった。

鈴はこんな生活を送っていた。

???

「鈴ー！一緒にさ今度カラオケとか買い物一緒にいかへん？」

鈴

「今そうゆう気分じゃないんだ・・・」

???

「そうなんだ・・・」

鈴

「ごめんね・・・さき・・・」

さき

「いいよいいよ!」

鈴

「また今度遊ぼう!」

さき

「わかった!」

さきはフルネームで櫻井さき。

私と一番の大親友。

彼氏の事も知ってるし隠し事なんて一切していない。

亮太の生活は・・・

???

「亮太このごろ元気ないじゃん?」

亮太

「そう?」

???

「そうだよ!あ!もしかして彼女に振られてんじゃ・・・!」

亮太

「違うよ!でも彼女とちょっとあっただけ・・・」

???

「俺は彼女もいねーし勉強も運動もできない最低な男だ!」

亮太

「そんな事ねーよ!涼は優しいよ!」

涼

「照れるよー!」

涼フルネームで神崎涼。

亮太の大親友だ。

それから一ヶ月。

亮太と鈴の関係はよくなかった。

やっぱ「遠距離恋愛」を甘くみてた。

二人の絆があればどこにいたって一緒。

でも絆が私達にあるのかわかんないよね。

その絆が見えたらその絆の線にたどって亮太に会いにいけたらいいのに。

ある日手紙が届いた。

それは亮太からだった。

鈴へ

ごめん急にあんな事言つて。

俺すっげー考えた。

一回俺の所に遊びにこいよ！

それからさまた話そう！・・・色々書いてあった。

私は嬉しかった。

さきにも話したしすごく喜んでくれた。

亮太に返事がきた。

亮太へ

嬉しい！

ほんじゃあ12月24日！

今クリスマス近いでしょ？

24日亮太と過ごしたい。
お願い！

親。

それから亮太と手紙は続いた。

亮太と私の家は親がきびしくて携帯とか付き合つとかだめって言われてたから

もちろん親には言ってなかった。

ある日こんな事が起きた。

手紙を交換していく内に母の顔が怪しくなっていって

「どうしたの？」って言ったら。

母

「なんで手紙なんか出してるの？」

「同級生だったら渡す必要ないし付き合ってる人なんていたら別れさすわよ！」

鈴

「ただ前の友達で転校しちゃったから手紙送ってるだけ！」

嘘をついてしまった。

その事を手紙に書くと同じような事が起きてたらしい。
そしたら亮太が。

鈴へ

やっぱ俺ら別れたほうがいいのかな？

親だって反対してるしこのままだとヤバイよ。
やっぱ別れよう。

私から手紙を送った。

亮太へ

手紙だけは続けさせて。

お願い。

だって亮太との関係が無くなるなんて絶対やだ。

亮太がなんと言おうと絶対手紙だけは続けるからね！

鈴へ

わかった。

ばれないようにがんばる。

鈴も元気で毎日手紙書けよ！

私は嬉しそうだった。

亮太がやっとわかってくれて嬉しかった。

でもこれからだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8602i/>

手紙

2010年10月10日03時31分発行